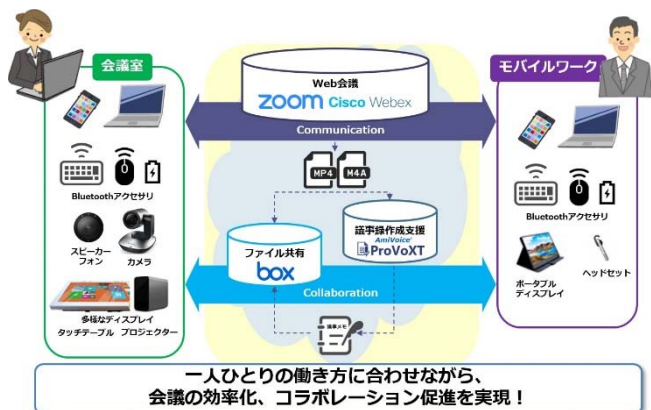


## 製品・サービス動向-国内

## ■三井情報：ビデオ会議コミュニケーションサービスの販売を開始、ファイル共有や議事録作成支援機能なども

(5月20日)

三井情報株式会社 (<https://www.mki.co.jp/>) (東京都港区) は、「MEDACA (メダカ) ビデオ会議コミュニケーションサービス」の販売を開始した。

MEDACA ビデオ会議コミュニケーションサービス  
(三井情報)

同社によると、働き方改革が急務となっている昨今、企業ではさまざまな対策が講じられているものの、働き方改革を実感しているビジネスパーソンは半数にも満たないという調査結果もあるという。そこで、MEDACA ビデオ会議コミュニケーションサービスの狙いは、テレワーク導入企業の約半数が導入 (出典元：総務省 平成30年版 情報通信白書第1部第4節 ICTによる多様な人材の労働参加促進) しているというビデオ会議機能を含め、業種を問わず ICTによる働き方改革を推進する企業の支援およびビジネスパーソンが働き方改革を実感できるシステムの提供にあるとしている。

本サービスでは、ビデオ会議の他に、クラウドスト

レージによる会議資料の共有・共同編集作業を効率化し、音声データ書き起こしによる議事録作成支援により議事録作成にかかる時間が削減できるとしている。今後は会議音声データの書き起こしから会議参加者への展開まで自動化するサービスなどを追加し、MEDACA シリーズの強化を目指すとしている。

本サービスを利用するにあたっては、初期費用100,000円 (税抜) に加え、小規模から試すことのできる「スターターパック (5 ユーザ/47,100円 (月額・税抜))」などを用意している。社員が利用する携帯用電子機器類や会議用の機器セットもトータルで提供することも可能で、システム担当者がこれらの機器を個別に調達する工数を削減することができる。また、テレビ会議だけでなく、個人用電話としての利用も可能であるため、内線電話設備などの削減も可能となっている。

三井情報によると、MEDACA シリーズの第二弾として、テレワーク導入を検討する企業で課題となるセキュリティが担保されたモバイル業務環境を実現する「MEDACA エンドポイント・セキュリティ・プラットフォームサービス」の提供を予定している。

## ■NTT ビズリンク：クラウド型テレビ会議サービス「SMART Communication &amp; Collaboration Cloud (SMART)」がリアルタイム翻訳に対応

(5月22日)

エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社 (<https://www.nttbiz.com/>) (東京都文京区) は、クラウド型テレビ会議サービス「SMART Communication & Collaboration Cloud (SMART)」のオプションメニュー

として、音声のテキスト化およびリアルタイム翻訳を可能とする「Smart 翻訳」をリリースした。



Smart 翻訳のイメージ (エヌ・ティ・ティ・ビズリンク)

Smart 翻訳は、Web ブラウザー上で行う遠隔会議において、リアルタイムで会話をテキスト化し、翻訳するオプションサービス。

異なる言語間でのコミュニケーション/会議、音声テキスト化による議事録作成の効率化や会議の可視化、海外向けの講演や研修などの配信、といった利用シーンで活用できるという。

提供する機能としては、音声認識+テキスト化、翻訳、音声読み上げ、の3つになる。

Smart 翻訳では、遠隔会議時の参加者からの発話を音声認識してテキスト化する。発話の切れ目に応じてテキストがリアルタイムで画面上のチャットエリアに表示される形。どの PC クライアントからの発言であるかも含めて記録が残り、テキストダウンロードも可能となっている。

翻訳可能言語は最大で 20 か国語（2019 年 5 月 22 日時点）に対応し、参加者が任意に選択する言語に翻訳され、画面に表示され、それぞれの参加者が選択できるようになっている。例えば、日本語-英語-中国語など、3 か国語での会話にも対応可能となっている。

映像：NTT ビズリンク\_Smart 翻訳

<https://www.youtube.com/watch?v=S5AWMybGUws>

## ■ブイキューブ：ビデオストリーミング配信方式の機能を強化した新バージョンの Web セミナーサービス「V-CUBE セミナー」を提供開始

(5 月 14 日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、5 月 14 日より、新バージョンの Web セミナーサービス「V-CUBE セミナー」の提供を開始する。

新しい V-CUBE セミナーでは、今後主流となる HTML5 方式を用いたビデオストリーミング配信方式向けに自社開発のエンコーダー「ビデオストリーミングスタジオ」を追加する。



V-CUBE セミナー ビデオストリーミングスタジオの画面イメージ (ブイキューブ)

これにより、配信側は、高画質な Web セミナーをいつでも簡易に実施することができるようになる。一方、セミナーを受講する視聴者側は、PC・スマートフォン・タブレットから専用アプリケーションのインストールなしで Web セミナーを受講できるようになる。

視聴画面は、スマートフォンやタブレット端末といったモバイル端末でも見えやすく、よく使われる機能を一画面で表示するインターフェイスへと進化している。複雑な操作が苦手な方でも直感的に利用できるようになっているという。

開始時点から視聴できる追いかけて再生機能を追加した。ライブでの Web セミナーに遅れてしまった場合でも最初から視聴できるため見逃しがないだろう。

テキストチャットとアンケート機能を備えている。Web セミナー中にリアルタイムでの双方向のテキストコミュニケーションができる環境を実現している。

V-CUBE セミナーは、高画質配信に加えて、利用者それぞれの端末やネットワーク環境に合わせて柔軟に画質を変更することも可能で、最大 20,000 拠点への配信ができるようになっている。

働き方改革が進む中、集合型研修からインターネットを活用した Web セミナーのニーズが高まっている。V-CUBE セミナーは、2018 年、約 2 万回の配信を通じて 450 万人の利用実績があったという。これまでの社内教育や研修だけでなく、採用セミナーや顧客向けの製品説明セミナーなど利用シーンも広がってきている。次世代通信 5G により、さまざまなシーンで Web セミナーの利用が本格化していくと考えている。

今後も Web セミナーサービスの利便性を高め、企業の働き方改革に貢献していくとしている。

## ■ジャパンメディアシステム：ビジュアルコミュニケーションシステム「LiveOn Ver. 16.0/Ver. 16.0i」を発表、フルハイビジョン画質対応のほか従来各機能の改良も

(5月22日)

ジャパンメディアシステム株式会社 (<https://www.jm-s.co.jp/>) (東京都千代田区) は、ビジュアルコミュニケーションシステム「LiveOn (ライブオン) Ver. 16.0/Ver. 16.0i」を 6 月 20 日より販売開始する。

今回の新バージョンでは、従来のビデオサイズに新たにフル HD 画質に対応し、さらに高精細な映像を実現したほか、以下のような従来の機能の改良も行った。

(1) 画面表示機能：メインウィンドウ枠をドラッグするだけで、好みの大きさに LiveOn 画面全体を引き延ばして表示することが可能になった。また、メインウィンドウを始め、各ウィンドウの表示位置を保存

し、好みのレイアウトですぐ利用することも可能になった。

(2) 高解像度ディスプレイの拡大表示対応機能：Windows ディスプレイ設定の拡大表示機能に対応し、表示倍率の変更に合わせて LiveOn も大きく表示されるようになった。

(3) 録音録画機能の変更：録音録画機能の利用時の標準ファイル形式を mp4 に変更した。

(4) アプリケーション共有機能：Mac 版アプリでも、使用中のアプリケーションやデスクトップを他参加者に共有することが可能になった。

(5) 多人数モード：多人数モード会議室の自動整列モード表示を可能な限りメインユーザの映像が大きくなるよう改良した。よりセミナー形式の会議や研修などに使いやすいレイアウトで利用できる。

(6) AdminToo 機能：月ごとの利用時間や送受信量などの情報を参照することができるようになった。なお、この機能は ASP 版ではオプション機能となる。

## ■リコー：360° の映像による多拠点双方向コミュニケーションシステム「RICOH Unified Communication System 360 VR Live」を提供開始

(5月23日)

株式会社リコー (<https://www.ricoh.co.jp/>) (東京都大田区) は、さまざまな現場の空間を遠隔地間で、丸ごと共有できる多拠点双方向コミュニケーションシステム「RICOH Unified Communication System 360 VR Live」を 2019 年 5 月 23 日に提供開始する。

RICOH Unified Communication System 360 VR Live は、テレビ会議・Web 会議システム「RICOH Unified Communication System (以下、RICOH UCS)」と、360° の静止画・動画を撮影できる全天球カメラ「RICOH THETA」を組み合わせて実現している。

RICOH UCS 360 VR Live は、クラウドプラットフォーム

フォーム「RICOH Smart Integration」上にシステムを構築しており、RICOH THETA を RICOH UCS の専用機器やスマートフォン、パソコンと接続してリアルタイムに 360° 映像を配信することができるようになって

いる。専用回線や MCU（多拠点接続装置）の設置が不要なため、RICOH THETA を現場の作業者が装着し、RICOH UCS 360 VR Live に接続するだけで、現場の状況を丸ごと共有できる。

この RICOH THETA を使った丸ごと共有の利点は、現場の作業者にカメラ操作の負担をかけることなく、それぞれの視聴者が手元のデバイスで自由に視点を操作し、拡大縮小して視聴できるというところにある。受信する側が関心のある部分に集中してリアルタイムに状況を把握できる。

想定しているシーンとしては、店舗、工場、教室、病院、建設現場、事故・災害現場など。状況を迅速かつ正確に共有し、円滑に意思疎通ができるため、さまざまな業務を遠隔地から支援できるという。

加えて、VR ゴーグルなどと組み合わせることで、実際にその場にいるかのような臨場感を体験できるため、さまざまな業務のトレーニングや接客、点検作業などの業務効率化にも貢献する。

リコーは、今回の提供開始に向けて 2017 年 2 月から社内外のモニターと連携して製品化に向けた実証実験や検討を進めてきた。

これまで RICOH UCS で培ってきた動画や音声などのメディア帯域制御の技術により、通常のカメラ映像よりもデータ量の大きい 360° 映像を高品質に伝送すること、会話などの双方向コミュニケーションが円滑に行える低遅延を両立している。また、360° の情報すべてを録画することもできるようになっている。

4G などのモバイルネットワークにおいても安定した接続を実現しており、将来的には、5G の普及にあわせて、高解像度化やより詳細な付加情報を加える AR（拡張現実）などの機能強化も検討していくという。

なお、RICOH UCS 360 VR Live は、「RICOH Intelligent WorkCore」のランナップとして提供する。さまざまな業種業務の顧客のワークフロー変革をより強力にサポートしていくとしている。

※RICOH UCS 360 VR Live コンセプト映像

<https://www.youtube.com/watch?v=0JpWDIWnLnE>

## ■JAMSTORE:ZOOM を使った、クリエイターによる「オンライン相談室」の提供を開始

(ValuePress:5月23日)

株式会社 JAMSTORE( <http://jamstore-web.com/> ) (大阪市北区) は、5月24日より、新サービス「クリエイターにちょっと聞きたい! 30分限定オンライン相談室」( <https://coubic.com/jamstore> )の提供を開始する。

このサービスは、オンラインビデオ会議ツール「ZOOM」を使用した、クリエイティブに関するお悩み相談サービス。クリエイターと画面を共有しながらタイムリーに説明を受けることができる。

「デザインやライティングを自分でやりたいけれどもうまくできない。」「検索しても方法がよくわからない。」など日々の仕事で発生する本業以外の業務負担を、オンライン相談で解決・軽減していくのが新サービスの提供目的。「ちょっとだけ詳しい人が自分のデスクの横に座っているような環境」を作り、気軽に相談できる相手として JAMSTORE のオンライン相談室を利用してもらいたいという。

JAMSTORE は、広告制作、プランニング業務、各種デザイン等を手掛けている。

## ビジネス動向-国内

### ■ブイキューブ：JR立川駅「エキュート立川」に新たにオープンした「JJ+T」内で、JR東日本が展開する STATIONWORK にワークボックス「テレキューブ」を提供

(5月17日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、JR立川駅の駅ナカ商業施設「エキュート立川」3階の「JJ+T」内 (<https://www.ecute.jp/tachikawa>) で、JR東日本が展開する STATION WORK (シェアオフィス) に設置する個室ブースの筐体として、ワークボックス「テレキューブ」を提供することを発表した。



JJ+Tの STATION WORK に設置されている「テレキューブ」の様子 (ブイキューブ)

テレキューブは、デスク、Wi-Fi、電源などを備えたブイキューブが2017年8月1日に発売したワークボックスで、今回 JJ+T 内には、1名用を3台、2名用を2台設置する。加えて、筐体以外にも QR コードを利用して入退室ができる予約管理システムなどを開発、提供している。

同施設内で周囲の人に聞かれることなく電話や

Web会議ができるスペースとして、また、来訪者が空き時間を使って仕事ができるシェアオフィスとしての活用が予定されている。JP 金融ラボの個室相談、タリーズコーヒーのカフェブースとしても利用可能となっている。

夏頃の正式サービス開始までは、実証実験として無料で利用できるようになっている。

※予約および利用方法：<https://www.stationwork.jp/>

### ■ブイキューブ：フォッグが提供するファンコミュニティサービス「CHEERZ」に「agora.io Video SDK」を提供

(5月22日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、ユナイテッド株式会社の子会社であるフォッグ株式会社 (<https://fogg.jp/>) (東京都渋谷区) が開発・運営するファンコミュニティサービス「CHEERZ」 (<https://cheerz.cz/>) に、ライブ配信・ビデオ通話・音声 SDK「agora.io Video SDK」を提供すると発表。

CHEERZ は、女性アーティストがファンと交流しながら新しい活躍の機会を得ることができる、ファンコミュニティサービス。アーティストにとっては、Twitterなどをフォローするファン以外の人々にも情報を届けられる可能性が広がり、ファンにとっては、メディア出演などのアーティストの活躍を直接後押しできるプラットフォームとして、双方に価値を提供している。現在 CHEERZ には約 5,000 人のアーティストが参加し、月間 1 万枚以上の写真が投稿されている。

CHEERZ のライブ動画配信機能「ちあスト (CHEERZ STREAMING)」は、アーティストが好きな時間に好きな場所から生配信し、アーティストとファンの新たなコミュニケーションの場を提供するサービス。定期配信することで独自性をアピールしたり、幅広いファンからの注目を集めることができることから、アーティ

ストから高い評価を受けているという。

近年アーティスト同士のコミュニケーションを見たいというファンの需要が高まっていることから、この度、ちあストの新しい機能として、agora.io Video SDKを使った「コラボ配信機能」が実装された。

生配信中に他のアーティストがファンを連れて応援に駆けつけて一緒に配信することができ、アーティストとファンの一体感を高めることが期待されている。事前のアンケートでは、1,000組以上のアーティストのコラボ配信を求める声が寄せられたという。

ファンは通信環境やデバイスに制限されず、ネットワークの低帯域環境下でも切断することなく安定して高画質のライブ動画を視聴し、応援することができる。また、コラボ配信を標準機能として提供し、アプリケーションの開発期間とコストを最小限に抑えることができることから、早期の実装が実現した。さらに、アーティストからの需要が高い「美白フィルター機能」を提供している点も特徴。その結果、従来の配信システムの利用時と比較して、配信数は4~5倍に増加したという。

## ■スタジアム：ウェブ面接ツール「インタビューメーカー」で5億6,000万円の第三者割当増資を実施

(PRTIMES：5月28日)

株式会社スタジアム (<https://stadium.co.jp/>) (東京都港区)は、株式会社ジャフコ (<http://www.jafco.co.jp/>) (東京都港区)を引受先とした5億6,000万円の第三者割当増資を実施したと発表。

調達した資金は、インタビューメーカーの機能開発、採用面接映像データのAI解析、エンジニア職・営業職を中心とする人材採用、マーケティング・プロモーション活動、シンガポール拠点設立によるグローバル展開の始動などに利用する計画となっている。

スタジアムは、スマートフォンやPCがあればいつ

でもどこでも面接ができる月額制のウェブ面接ツール「インタビューメーカー」をSaaS形式で提供している。

2017年5月のサービス開始以来(ベター版リリースは2016年5月)、株式会社ADKホールディングス、株式会社コーセー、積水ハウス株式会社、キューピー株式会社、ダイドードリンコ株式会社など1,100社以上の企業に導入されているという。

導入メリットとしては、採用工数やコストの削減が図れる、録画面接で24時間応募に対応できる、遠隔地などこれまで接点のなかった応募者数を増やせる、などの点で好評を得ている。求職者に対してはより広い面接機会を、また企業や市町村に対しては採用力を提供するサービスであると説明している。

同社は、現在の就職市場は超売り手市場にも関わらず、ITの活用は求人メディアなど採用手段や採用管理にとどまっており、面接自体にはテクノロジーによる進化がほとんどなされていないと指摘する。

属人的要素が多くを占める、旧態依然とした面接をテクノロジーで進化させ、従来では得られなかった価値や気づきを面接参加者に提案し、その利便性も大幅に高めていくとともに、企業が求職者をジャッジするだけの画一的な面接ではなく、双方が面接の意義と出会いの楽しみを感じられる“新しい面接”を社会に提案していくのが事業の狙いという。

その時に、テクノロジーを、面接中にとどまらず、面接実施前、面接実施後と選考プロセス全体に適用範囲を広げることがポイントになる。

そうすることで、たとえば、応募者の発言内容や表情の変化などの録画データを解析すれば、応募者の特性や性格をより深く、丁寧に知ることが可能になる。同社では、このサービスで会社文化とのマッチング度合いに早い段階で把握し、入社後の活躍を推し量ることを支援する。

まずは保有する7万件をこえる面接データの解析を進め、第一弾となる機能をリリースする予定という。

## ビジネス動向-海外

### ■Enghouse Systems 社：Vidyo 社を約 4,000 万ドルで買収

(5月15日)

Enghouse Systems 社(<https://www.enghouse.com/>) (カナダ・マーカム)は、Vidyo 社(アメリカ・ニュージャージー州)を約 4,000 万ドルで買収したと発表。

Vidyo 社は、クラウド・オンプレミス・ハイブリッドに対応した、エンタープライズクラスのビデオソフトウェアソリューションを提供しており、1,700 社以上の企業に採用、年間約 6,000 万ドルの売上があるという。

ビデオルーティング・マネージメント・インターオペラビリティの各関連技術に特許を取得しているとともに、サードパーティ製のアプリケーションやデバイスなどへの統合を容易にする API を提供しているところに特長がある。そういったことから、医療関係や金融関係といった特定市場 (vertical markets) の事業へも注力しており、約 400 の医療機関や、120 もの金融機関への導入実績もある。

Enghouse Systems 社から見て Vidyo 社のソリューションは、相互補完的であり、自社のエンタープライズ向けソリューションを強化するものと評価している。

## 市場動向-国内

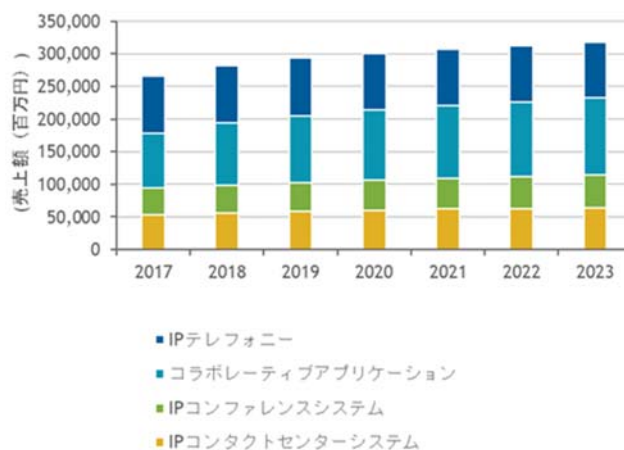
### ■IDC Japan:最新の国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場予測を発表

(5月20日)

IDC Japan 株式会社 (<https://www.idc.com/jp>) (東京都千代田区)は、国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーティブアプリケーション (UC&C) 市場を調査し、2018 年の市場の分析と 2019 年から 2023 年の市場予測を発表した。

IDC では、国内 UC&C 市場を「IP テレフォニー」「コ

ラボレーティブアプリケーション」「IP コンファレンスシステム」「IP コンタクトセンターシステム」の 4 つの市場に分類し、分析と市場予測を行っている。



国内ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション市場 売上額予測、2017～2023年 (IDC Japan)

2018 年の同市場は、ベンダー売上額ベースで前年比成長率 6.0%の 2,813 億 1,600 万円になったと IDC では推定している。また、同市場は、働き方改革によるリモートからの業務遂行需要の継続によって、2018 年～2023 年の年間平均成長率 (CAGR) が 2.4%、2023 年の市場規模は 3,173 億 900 万円に成長すると予測している。

4 つの分類の中で、遠隔会議に関連した IP コンファレンスシステム市場は、前年比 5.1%増、422 億 6,700 万円だった。同市場は、大規模ビデオ会議システム導入の一巡感によって、小規模システムへのシフトが 2017 年から発生しているが、Web 会議サービスは依然として高成長を維持しており、働き方改革によるリモートサイトからの業務遂行を目的としたビデオコミュニケーションのパーソナル化が進んでいると分析している。

2019 年以降は、東京オリンピック/パラリンピック向けのビデオを活用した顧客サポート/ビデオによる監視などの大規模需要が見込まれること、働き方改革の推進によるリモートからの業務量増加に伴って堅調

に成長すると IDC Japan では予測する。

今回の発表は IDC が発行した「国内ユニファイドコミュニケーション／コラボレーション市場予測、2019 年～ 2023 年」にその詳細が報告されている。

※プレスリリース(他の分類の詳細)

<https://www.idc.com/getdoc.jsp?containerId=prJPJ45064719>

PR

### ■ヤマハ株式会社



ユニファイド  
コミュニケーション  
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■ブイキューブセミナー情報（6月～7月）

「災害現場の今を共有出来ていますか？災害発生の混乱時、意思決定のスピードと質を向上」、ブイキューブ 東京オフィス見学ツアー、＜スマートグラス体験セミナー＞ハンズフリーで現場作業を遠隔支援！、「従来比 1/3 のコストで導入できる” V-CUBE Box 体験セミナー、など  
会場：（東京・大阪・Web セミナー）

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

### <海外>

#### ■InfoComm 2019

日時：6月8日-6月14日

会場：アメリカ フロリダ州 オーランド

主催：InfoComm International

詳細・申込：<http://www.infocommshow.org/>

#### ■AllThingsRTC

##### THE PREMIER RTC EVENT

日時：6月13日（木）

会場：Parc 55 San Francisco - a Hilton Hotel

主催：ALLTHINGSRTC.ORG

詳細・申込：<http://allthingsrtc.org/>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

#### ■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

#### ■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

#### ■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>



## 定期レポートバックナンバー

■PDFファイル版（1号毎PDFファイル）

>2003年～2018年最新号（1号毎PDFファイル）

<http://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

■電子ブック版（複数号まとめているのもあります）

>2003年-2013年：

[http://www.catalog-square.co.jp/cna\\_report/](http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/)

>2014年-2017年：

[http://www.catalog-square.co.jp/cna\\_ebook/](http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/)

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2019年5月31日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: [cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)